第 50 回　川崎市幼児教育研修大会
第３分科会　３歳児研究会
月　日　平成 22 年１月 20 日（水）
場　所　ユニオンビル
講　師　高橋　かほる先生
（聖徳大学児童学部児童学科准教授）
テーマ：・３歳児の自己信頼感と成長の誇り
・３歳児から４歳児の育ちを親に教える
俯瞰図番号　C1 － II　F2 － II

◎今年度のテーマの発表と保育の実践報告

５月 20 日

〇１年間の製作
・４・５月は行わない
・「かたつむり」→模様をクレヨンやシール
・「かに」→背景をダンボールスタンプ
・「どんぐり、くり」→折り紙
・人間の形に色をぬり、模様をえがく
・「リース」→折り紙のサンタやシールを貼る
・「とら」→折り紙、まわりは梅と葉を貼る
〇不安に思う保護者に対して
・送迎時に話をすると園でのことがわかり安心できる
※３歳児の内面と成長の理解をすることが大切である

６月 17 日

〇子どものようすと保育者の援助
・言葉の未熟さ、表現がうまくできない
・朝の視診は子ども、保護者のようすを見る
・集団を通して園という社会を一年間で学んでいく
・どこでどんな遊びをしているのか、どんな会話をしているのか知る
・自己主張できない子への対応
〇親の気持ち理解
・３年保育は園、子どもに対する期待が大きいので、３歳児の特徴を把握して事例を出して話す
※１人１人と根気よく、心で会話できるようにする

９月９日

〇けんかから学ぶもの
・トラブルは人間関係を学ぶチャンスである
・保護者にはいま、何を大切にする時期なのか伝える
・保育者は常に子どものよいところを見つけておく
※けんかを通して気持ちに折り合いができるようになり、自分の気持ちを収めることを経験する。自分の思いを伝えること、相手の気持ちを知ることができる

10 月 21 日

〇保育をしていく上での視点
・体の動き、言葉、手先、集団での関わり、生活習慣が備わっていることは育っているということ
※自己主張できるよう内にあるものを保育者は外へ出してあげることが大切である
※視点を考えながら保育をしていく上で保育が楽しく感じられる

11 月 18 日

〇共同から協同へ
・自我が強かった子どももまわりを見て理解できるようになり、みんなで協力する意味を知る
・仲間意識の高まりや協同的な遊び、関わりで社会性は身につく
※社会性・道徳性は個々で育ちが違う

＜講師より＞
〇３歳児の特徴
・欲求にふりまわされる
→現実を整える見通しが甘い
・失敗が多い
→大人が容認する、繰り返しのチャンスを与える

→知恵がつく
・成功体験を味あわせる
→少しずつ自分で行えるようにする
〇保護者には、目に見える成長（体の大きさ、絵が上手）をきっかけに目に見えない成長（人間関係、言葉）を例に出して伝えるとよい

◎４歳児の特徴
・「やる気十分、実力不十分」
・欲求が先立つ、規範意識を持ちあとになって悩む
・ごっこ遊びが広がる
・事実を捉え、読み取るができることから空想が広がりうそやないことを話す
→事実の読み取りが発達につながる
〇考察を深めると保育が楽しくなる
〇保護者にはうそではなく、空想が広がる時期でこれがごっこ遊びにつながることを伝える

◎人生のなかで、同調性・同質性・異質性と繰り返される
・同調性→行動が同じ、場所でつながっている（感覚的に遊ぶ２～３歳児と同じ）
・同質性→同じ感じ方、自分に自信がなく必死に仲間といる（不安と混乱）
・異質性→パーソナルティーを理解され安心できる

◎幼児期に全部支配的に育てられ自我を出しきれていないと、大人になれば曲がった形で出てしまう

◎相手理解は発達の時期をその場でクリアしていくこと＝保護者を理解することになり３歳児に影響を与えている

◎カウンセリングマインド（＝傾聴）
・心に耳を傾ける
・保護者の欲求に耳を傾け受容する（仲間、園全体で考える）